

# AV と PC の融合を目指して

## Pursuing the Convergence of Audiovisual and Personal Computer Technologies

東芝は1985年以来、ノートパソコン(PC)のトップベンダーとして、常に差別化された技術で新市場をグローバルに創出し、かつその市場拡大に貢献してきました。しかしながら昨今のPC市場においては、ユーザー環境を変革するような新たな価値が提案されることなく、コモディティ化だけが進展しています。これにより市場は、開発費などを抑え、効率生産だけを追求したパーツ組立てベンダーが勢力を伸ばしてきたという状況にあり、新たな付加価値を提案することが業界全体の課題となっていました。そこで当社は、このような状況に対応すべく、プラットフォームの絞込み、部品の共通化、部品点数の削減、ODM (Original Design Manufacturing) の活用、生産・調達・販売体制の見直しなど地道な努力を続けて体質強化を図るとともに、今こそ革新的な技術を生かした差別化商品を提案し、市場を創出・拡大する時期であると考え“AV ノートPC”の開発着手に至りました。

AV ノートPCの開発においては、当社が永年培ってきたPC技術とAV技術の融合が最大のテーマであり、同時に、常に他社より1歩も2歩も先行し、かつワールドワイドに展開するというハードルの高いテーマとなりました。しかしながら、BIOS (Basic Input Output System) など深層部から開発してきたPCのノウハウと、テレビやビデオなどで培ってきたAVのノウハウを併せ持つ当社にとっては最適な市場セグメントであるとともに、他社ではまねのできない差別化商品を開発・提案できるセグメントでもありました。また当社は、昨今のデジタルAVコンテンツの急拡大により、世界的なAV ノートPC市場が2008年までに立ち上がると予測し、コンシューマPCの研究開発をAV ノートPCに集中する戦略をとりました。その成果として、2004年7月にAV ノートPCの新ブランド“Qosmio”を発表し、これまでにワイド液晶搭載モデルを含めた3機種をフルラインアップして、ワールドワイドに投入してきました。

この特集では、AV ノートPC市場の分析と動向予測、Qosmio商品の狙いとコンセプト、特長、差別化技術、及びホームネットワーク技術を含む将来への研究開発の取組みについて紹介いたします。



真田 勉  
SANADA Tsutomu